

平成30年1月11日（木） 立志式に臨むにあたっての校長講話

はじめに、立志式（元服にちなんで数え年15歳を祝う行事）を通じて、「自分の志とは何か」を考える機会を設けていただいた田村市に、皆さんと共に感謝したいと思います。

「志とは何か」という問いに対する答えは、いろいろあると思います。この後の立志式でいただく立志証書には、「将来の夢に向かって目的を定め、これを成し遂げる志を立てるとともに、社会に貢献できる人間に成長することを期待して、ここに立志証書を授与する」と書いてあります。

皆さんは、親や友達、先生などの他者に影響されて、妥協したり我慢したりしたことがあるかもしれません。しかし、大人になるということは、自分は何をしたいのか、自分なりの答えを自分で見つけることができることだと思います。このことが、自立であり立志だと考えます。

「なぜその高校に入りたいのか、なぜそう思うのか。」「なぜその仕事をしたいのか、なぜそう思うのか。」このように自分自身としっかりと向き合い、突き詰めて考えないと、自分の可能性には気付けないし、本当にやりたいことは見つかりません。しかし、自信を持って答えることができれば、その後の行動ががらりと変わるでしょう。

これからの人生では、ときには周囲の反対にあうこともあるでしょう。そのとき、他者を判断基準に進路を決めていたら、その他者に裏切られたときどうなるでしょうか。信念を持ち、自分の人生に納得して突き進まなければ、困難を乗り越えることはできないでしょう。

他人に迷惑をかけないことを前提に、自分のやりたいことを見つけ、それを実現するために、自分の可能性を發揮できる場（居場所）をつくる。可能ならば、それを大きく広げていく。それが最終的に、社会に貢献することにつながっていけばいいのではないかと考えます。